大会規則及び選手注意事項

１　本大会は、２０２６年度（財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項及び申し合わせ事項により実施する。

２　競技者の招集

（１）事前に欠場が明らかな場合、朝の受付時にエントリーシートの種目欄に赤線を引き提出すること。
受付後にケガ等で欠場をすることになった場合、本人もしくは、同じチームの監督、選手が招集所へ伝えに行くこと。

（２）トラック競技の招集所は１００ｍゴール地点付近のトイレ前（競技場外）に設ける。フィールド競技は各種目のピットに集合すること。

（３）招集は出場できる服装で集合し、密集を避け係員の指示に従うこと。
招集時間の基本は次の通りとする。組ごとに招集時間を設定するので、タイムテーブル招集時間を確認すること。招集開始時間よりも早く来ることを禁止する。

		招集開始	招集完了
トラック	予選	招集完了時刻の10分前	タイムテーブル参照
	準決勝		
	決勝		
フィールド	投擲	競技開始　25分前	
	跳躍	競技開始　35分前	

※棒高跳は競技開始６０分前を招集完了とし、競技場内での練習時間をとる。
※円盤投は競技開始４０分前を招集完了とし、競技場内での練習時間をとる。

（４）リレーについては、メンバー全員で招集所に集合すること。

（５）招集所でトラック競技のみ腰ナンバー標識（レーン）を受け取る。

３．走高跳・棒高跳

（１）芝生側に走高跳マットを設置して行う。

（２）バーの上げ方は最後の１人になるまでは、次の規定による。

		練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
走高跳	男子	1.20/1.50	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	以降3cmきざみ
	女子	1.10/1.30	1.15	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	以降3cmきざみ			
棒高跳	男子	1.60/2.00	1.60	1.80	2.00	2.20	2.40	以降10cmきざみ							
	女子	2.50	1.60	1.80	1.90	以降10cmきざみ									

４．走幅跳・投擲種目

走幅跳・投擲種目は競技３回終了時点の上位８名には、さらに３回の試技が与えられる。ただし、参加人数と競技日程を考慮し、試技回数を変更する場合がある。

５．トラック競技

（１）ゴール後は、メインスタンド前を通過してはならない。ただし、ゴール後にフィールド種目にすぐに出場する選手はメインスタンド前を通過してもよい。

（２）不正スタートは１回で失格とする。

（３）不正スタートの不適切行為に関しては、警告(イエローカード)を与えられることがある。本大会は種目ごとの累積とし、同一種目のイエローカード２枚で当該種目のみ失格(レッドカード)とし、それ以後の他の種目の出場は可能である。

（４）招集完了後の最終出場者数によって、３０００ｍの２段階スタートを設定する。

６．リレー競技

（１）リレー予選のオーダー用紙は事前に作成し、朝の受付で提出すること。リレー決勝のオーダー用紙は招集完了１時間前までに招集所へ提出する。リレーオーダー用紙は、事前にホームページからダウンロードしたものを使用すること。

（２）予めエントリーした選手から２名以上が走らなければならない。エントリー以外の選手が走る場合は大会プログラムに記載された選手でなくてはならない。

（３）リレー競技においては、同一系のユニフォームを着用する。

７．アスリートビブス

（１）小中体連指定のアスリートビブスを各自で用意すること。

（２）アスリートビブスを必ずユニフォームの胸・背両面に着けること。跳躍種目はどちらか一方でも良い。

（３）申込ナンバーからの変更は認めない。

８．競技用靴

日本陸上競技連盟競技規則ＴＲ５に基づいて大会に参加すること。

（１）スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳は12mm以内とする。いずれの場合も本数は11本以内とし、先端近くで少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。

（２）厚底シューズに関する規定は以下のとおりである。

種目	最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目	20mm	走幅跳・走高跳・棒高跳に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目	20mm	100m、200m、400m、800m、2000m、3000m、ハードル、4×100mリレーに適用。

（３）WA（国際陸上競技連盟）が承認しているシューズを使用すること。

（４）アップシューズの中には、規定に触れる厚さのものが市販されているため、失格とならないように事前に確認すること。※例：走幅跳に出場する選手が、アップシューズを履いて試技を行おうとしたが、厚さが20mmを超えているため、その靴では出場できない。四種競技の走高跳も同様である。

（５）規定外シューズ使用者の扱いについては「失格」とする。競技前に確認した場合は、そのシューズの使用を認めない。招集後に規定外のシューズの使用が確認された競技者は失格とする。

（６）砲丸投・円盤投においては、シューズ規定の適用を除外する。

９．各種目１～３位に賞状を用意する。

表彰については、行わない。

１０．ウォーミングアップ

（１）ウォームアップエリアとしてバックストレートと芝生公園を使用できる。

（２）バックストレートには選手と指導者のみ入場することが可能になる。

（３）バックストレートを使用の際には、競技中の選手に注意すること。５～８レーンのみ使用すること。

（４）来園者もいるため芝生公園では道具の使用は禁止とする。

１１．その他

（１）選手の競技場入口は１００ｍスタート及びゴール地点付近のゲートとする。

（２）スタンドでの応援について、メインスタンドでの応援は禁止とする。

（３）スタンドへの入退場の制限については行わない。

（４）チームのベンチをメインスタンドに設置することは禁止する。チームのベンチとして競技場外周り、サイドスタンド、バックスタンドを使用することができる。

（５）競技場内チームベンチ、横断幕設置、応援ベンチ設営は７：３０～とする。

（６）大会運営のために必要に応じて競技役員より指示が出されたときはそれに従うこと。

（７）天候等の事情（WBGT値・雷等）によりタイムテーブルが変更になることがある。

（８）天候等の事情（WBGT値・雷等）により決勝が行われなかった場合は、予選の記録を決勝記録とする。

（９）物品の管理について、各自の責任において紛失・盗難等のないように注意すること。

（10）ゴミの処理については各校持ち帰りを徹底し、競技場や公園内に残していかないこと。

（11）写真撮影を行う際は、TICにて許可証をもらうと共に、撮影に係るルールを必ず守ること。